

意見交換会参加者からの発言要旨

○：参加技術者の声 ◎会長・整備局等の見解

週休二日制について

◎若年者のためということで始まったこの制度も、昨年も同じテーマで意見交換を実施したところ、意外にも40代以上の子育て世代に好評でした。週休二日制も受注者希望型での実施だとなかなか現場では進まなかったが、発注者からの指定であると堂々と休めるのでとかえって好評でした。

○週休二日の実施で、個人的にはプライベートな時間が増えたことで良かったと思うが、日給月給の下請けの職人は休みとなると他の現場へ行くこととなり、技術者の間では好評でしたが、下請けを含めた現場全体から見ると難しいのではないかと思う。

○週休二日の現場は実施できたのだが、下請けからは土日仕事ができないかとの話が有った。現場を管理する立場からすればよい制度とは思いますが、下請けを含めると難しいと思う。

○現場の管理から見れば土日休みはいいのかなとは思いますが、住民から平日休みなので逆に土日に仕事をしてほしいとかの話もあった。すべての住民の声を反映するのは難しいとは思いますが、一週間のうち土日以外でも休みの設定ができるという流動的な取り組みをしてもらえるといろんな対応もしやすくなるのかなとは感じた。

○完全週休二日の管理部門からの異動で初めての現場が週休二日の現場であったので体力的には耐えられたのですが、今まで現場が週休一日とかで二日無しできたということは、非常に大変な現場だなあと実感しました。これでは若手はとてもしゃないが入ってこないなど改めて感じました。残業時間の5年間の猶予の話があったが、歩掛単価にすでに残業時間が組み込まれているという研究発表があったが、週休二日で発注した場合どのような単価で考えられていたのか、元受けとしてはコストの面で悩ましいものになっていると思う。

◎労務単価は、毎年10月に行う労務費調査の結果に基づき設定されており、残業時間を含まない労働時間8時間あたりの労務単価となっています。また、週休二日試行工事では、取り組み状況に応じて労務単価等の補正を行っています。

◎人件費だけでなく、機械損料等への波及も昨年あたりから考えていただいていると思います。このような意見の交換の場に出た事案を反映してきていただいているのだと思いますので、ご意見を出していただければ発注者にも届いていくと思う。

○受注者希望型でしたが、現場を管理する立場ですと、工期の面で例えば切り替えの時期が決まっている、開通が決まっている、渇水期であるとか限られた工期となり元請けとしては苦勞した。個人としては週休二日も休みが取れて良い取り組みと思うが、日給月給の下請けは、現場は休んでいるが他の現場へ行っているということとなり今後の課題と思う。

○当初計画通り休日は確保できているが、下請け業者に聞くと土日は他の現場へ行っているのが現状で、協議会を通じて下請け業者に制度の在り方とかを説明はしているが、強制力がないので将来的には発注者から指定にしたほうが制度が普及していくのではと思う。土日休日にするということは、業務を平日に振り分けることとなり、社内で作業を分担して効率的に作業が進むように制度の見直しを社内でも進めている。

○週休二日の発注者指定型と週休二日の受注者希望型が同時期、同場所で発注されたが、当初工期が大きく違っていた。適正な工期設定に疑問がある。

◎中部地整の発注工事では、発注者指定型、受注者希望型ともに週休2日で工期設定しているため、今回のケースは現場条件に差異があったものと考えられます。ちなみに、フレックス工期とは始期と終期を受注者が選択できるものです。

◎県はフレックス工期の制度はない。工期の設定は基本的には積み上げ方式としているが、金額や工事種別による標準工期の採用も認められている。

○下請けであるが、生産性向上と週休二日は同時進行で初めて意義があると考えます。元受けが週休二日に慣れていないこともあり、ICT対応していなくて従来の施工手順で一週間の中で5日に短縮しようとするので、とにかく人数を動員してくれ、そしてそのままやってくれと言われる。経費は上乘せされているはずですが、下請けは同じ価格でそのまま安く抑えられることが多い。下請けの立場からいうと人数を増やして期間を短縮してくれ、単価的には価格は据え置きなどでメリットはほぼないという厳しい状況である。

○地整の取り組みでも、i-Conの推進で、休日の拡大、省人化によって生産性の向上を図るもので、週休二日を進めるだけではどこかにしわ寄せがいくだけです。i-Conとペアをなしていかなくては本当の意味での週休二日は体をなさないのではないかと。

○発注者指定型であると工期は取れるが受注者希望型であると今後の成り行きが不安である。週休二日で職員は休むが、下請けの作業員は他の現場へ行くというのが現状です。職員も自分の現場は休みでも他の現場が稼働していると出向の依頼がかかることがある。希望型であったが、引き渡し期日や年度をまたげないのでと言われると土日祝日も出ざるを得なくなる。少し配慮してもらえると助かる。

○民間工事が主流で週休二日はあまりないのですが、官庁工事で希望型でと考え、工期を検討したが、引き渡し期日や湧水期を考慮すると厳しい現況に直面する。週休二日制の現場では、下請けは1日休むだけでも嫌がるといわれるのが現状で、他の稼働している現場へ行くということになる。下請けの末端で問題を解決できなければ、週休二日は実現できないと思う。解決策としてはやはり賃金等の労務費を払えるかが決め手ではないか。その救済を如何にできるかにかかっているのでは。周囲の製造業では週休二日が当たり前のようになっているが建設業だけがそこに行きつけない、この現状を打破できるのではないかと思う。

○採用活動で直面したが、学生が気にしていることの一つが完全週休二日である。わが社ではすべての現場で週休二日を採用することが方針であり、すべて受注者希望型で進めています。河道掘削工事でICT5項目は実施しなかったが、ICT建機で施工し、マシンガイダンスを活用した。干渉の影響を受ける現場で、実作業時間が短い現場であったなか丁張作業、出来形進捗状況の確認。施工履歴の確認ができ管理の面で工期の短縮ができたと思う。ICT活用工事も全面活用となるとなかなか着手しづらい方も見えると思うが、普段使いで一部だけでも工夫して活用できると効果も表れると実感した。多年度にまたがる工事のなかで、次の発注工事に絡む工事になっていて、契約時から工期延期が検討される現場での週休二日は実施してほしくない聞いた。また協力会社の件についてもやはり土日他の現場へ行くということはありません。

○発注者指定型の現場であったので休みが取れて心にゆとりがあっただけいいな、もっと増えればと感じていますが、協力会社の意見を聞くと、お金の話もそうであるが、休みより仕事をしていたほうが良いとか、仕事を生きがいにしていて人もいることから一概に休みがあるということが幸せに向かうと言い切れないと思うが、週休二日を魅力に感じる若手もいると思うので土日祝日は休みであるを定着させることは必要であると思う。

○週休二日の管理部門から現場へきて初めて土曜日勤務となり体力的にもきつかったですが、給料はその分反映されていたので良かったとは思いますが、若手からは週休二日のほうが働きやすいという意見が多いと感じている。

○休みたいという作業員もいたので、適正な工期とお金があれば週休二日は可能であると思う。ただ、山間部の工事とか地方から来ている作業員たちは、週休二日で休みがあっても持て余すだけであるという話も聞いている。そのような場合、毎週1日だけ休み、3カ月くらいの大きなスパンで1週間休み、トータルで休みを消化する考えもあると思う。以前元請け社員でも調査したところ平均して1か月150時間くらいの残業が必要との結果が出たことがあったので驚きとともに週休二日の施策で減らすことが必要なのではと思う。

○工事を二日止めるのか、作業員が二日休めばよいのかのイメージが明解ではない。

○3億円以上の発注者指定では、完全週休二日で現場を二日間閉鎖します。週休二日相当は4週8日で完全に土日止めるのではなく雨の日もカウントできる。それに加えて本年から週休二日交代制で維持工事等で365日止められない現場ではだれか交代で出ればよく個人が交代で週休二日とする3つのパターンで実施する

○デジタル化は早急に行って欲しい。特に今は押印の時代ではないと思うので、PDFをそのまま箱に入れて済ませればよいと思う。NEXCOでは10年位前から行っていると思うが当時はクラウドが未熟でしたので時間が掛かっていたが、通信技術の発達で使いやすくなってきているので実施していったらよいと思う。書類の修正は、作り直すのではなく手書きの修正でもよいのではないか。

○電子化した書類を保管すればパソコンで作成したデータを改めて書類にして提出する必要がなく、作業時間が短縮されるし押印行為も電子化で省けると思う。そうすることで残業も減っていくのではないか。

○変更資料の作成をされていて感じたのですが、いろいろ省力化は進めて頂いているが、結局変更部分は受注者で確認して修正していくこととなるので、元請で把握した修正部分を発注者の技術支援の技術員で実施してもらえると書類も減ると思う。

○国土交通省の電子化は、時間短縮にもなり便利と思う。紙ベースで提出すると担当者との調整や時間的ロスも多くなり、結果書類の作成も後手に回ってしまう。提示書類ですが、技術者によっては、バック資料が必要となることもあり、資料を準備する範囲も明確化されるとよいと思う。

○書類が減ったという実感は持っている。電子化は、国交省では進んでいると感じるが、県・市・町と行くほどに進んでいないと思うので、早く国交省のレベルまで浸透していくと書類の簡素化が進むことになっていくのでは。

○協議にかかる書類は全然減っていない。技術員からバック資料としての要求が多く結局資料は減っていないのが現状です。協議の書類に関していえば、協議書類を確認した現場技術員から20:00過ぎにもバックの資料がほしいと電話が来ることがある。結局書類が多くなることで時間外勤務も増えることになる。

○静岡県は、国交省に関係なく独自でクラウドを活用して今年から押印が一切なしを採用している。全国的にも県・市でも進めているところが出てきているので、愛知県でも国交省などには関係なく愛知県独自でどんどん進めていってもらえるといいのかと思う。愛知県は全国的にも遅れていると思う。

◎愛知県でも情報共有システムの導入を検討しているところです。

○国交省ではASPを採用してから随分と書類の簡素化はされてきたと思う。提出書類もデータ化して保存してきたので、現場で保存する資料は減っている。ASPの運用についてですが、変更資料のやり取りで、ASPの掲示板を使ってもいいよという処もあれば、技術員とメールでやり取りをといわれる処もあつたりで、事務所ごとに使い方が違い活用できていない部分もあるので今後有効活用出来るようにルール化されるとよいのではと思う。

○国交省では書類の簡素化は究極に近づくくらい進んできたが、反対に施工体制の一覧などなくていいのかなと心配しているが、簡素化で説明しづらいところもある。管内が広く出張所から1時間かかるなどで事務ロスがあるが、新しい試みで工程会議等の打ち合わせ会議をweb上で実施していただき、業務の負担も軽減されているので今後はこのようなことも積極的に行っていただけるとよいのかと思う。

○簡素化イコール電子化と思うが、提出書類は減っていると感じるが、バックデータを作成することには変わらないので提出は減っているが作業量はさほど変わらないのかなと思う。

○全国的にも中部地整のASPは進んでいるので、簡素化につながっているとは思いますが、検査の時に担当によっては心配なのでバック資料は持ってきてと言われる。なかには紙ベースで見たいという人もいるので両方持っていかなざるを得ず、結局書類は増えることになる。ASPの運用を統一してもらうことが重要と思う。ICTのドローンにしても従来からあったものなんだが、使ってもいいよとなったのは国の規制緩和でここにきて急速に進展していると思う。WEB会議にしてもそうですが提案したものをどんどん緩和してもらえないと改革に結びつかない。国交省には技術もあるが町村となると人も技術も少なく今後取り残されていき、いつまでも紙ベースが続くのではないかと懸念するし、今後格差が一層広がっていくのではないかと心配。今後は独自で進めることも必要ですが、肝心なところは国交省が仕様、様式など統一して進めることが必要になるのではと思う

○当初工期設定の段階で年度末にいったん切るという工事で、最初からこの工事は工期を延長されることが既定で、変更がなされると契約工期の書類の出し直しとかが必要となり下請けとの関係、契約書類の書き換え、再提出など事務手続きが煩雑となる。提出書類が減ったとは言われるが、過去に完成書類で評価点アップのために作っていた書類が標準化され、さらに新しいことをする必要があり、作成する書類は増えているのではないかと

○電子化が進んできたことによる提出書類は減ってきてはいると思うが、電子化も部署によって電子化をしている課もあれば、していない課もあり、温度差が激しいので、統一化は重要と思う。

○電子黒板で写真・書類の整理とかが自動でできるので生産性は格段に向上したと思う。事前に黒板を何枚か用意できるので現場であわてることなく対処でき、黒板の記載、消去がなくなるので生産性は上がる。難点は夜間工事で暗い処での写真撮影がスマホのフラッシュなので光量不足で鮮明にとるのが難しい点と慣れるまでに時間がかかることです。

◎昨年の意見交換で、電子化は使い勝手の面で便利であるとの意見が出ましたが、今年は発注者間での温度差が大きいことや同じ発注者の中でも所属の間でその運営にばらつきがあることが出されました。

◎電子化されたなか、資料を紙ベースで提出を求められることはなくなったと聞いている。電子か紙かは、最初の施工計画の時に決めて共有しているはず。ASPであればPDFで電子化して実施していただければと思う。最初の計画時にお互い紙はできるだけやめる姿勢を打ち出すことが重要である。電子が原則ですので、紙で別途求められた場合ははっきりと断ってもらえばよい。そのような場合は担当職員に話してもらいなど共有して業務の削減を図ってください。工事に求められるものは品質と給付の確認ですのでそれ以外のものは必要ありません。

◎発注者支援の契約仕様書等で、現場技術者から過度な要求はしないことを明記しているのですが、現場ではないと思っていましたが、今後そのような現場の技術者から過度な要求があった場合は技術管理課または事務所の副所長へ申し出ていただければ対処いたします。

◎市は、電子納品は実施していますが、ASPを採用していないのが現状だが、将来的には採用を検討していくので、ASPを使いたいと考えているときは相談してほしい。

女性の進出について

○現場が狭小であったりする制限はあるが、最近は職員だけでなく、下請けでも女性が増えてきていることから、職員だけでなく、下請けのことも考えて現場を設置する最初の段階から、トイレ・更衣室の設置とかを考える必要があると思う。

○女性が働きやすい現場環境になるということは、男性も働きやすい環境となることだと思うので、そうなることで将来建設業で働きたくなる人が増えてくるのではないかと

○女性のためという言葉あまり使ってほしくない。女性の求めることはたぶん男性も求めることではないかと思う。女性とか若手とかが定着するためとかの交換会があると、中堅の技術者からは女性・若手だけに限らないで、中堅の技術者も含めて考えていったらと言われる。30代の中堅の方は、子供さんも小さく同じような問題を抱え家族との時間を大切に考える人も多いので若手、女性に中堅の方も加えて考えていくことも必要。50代過ぎると子供の手も離れ仕事優先の人が結構多い。

○女性が進出しやすいように、i-Conとかが進められているが使い方がわかれば便利ですが、電子黒板はスナップのように写真を撮ることができるので、アプリを開くと前の写真が残っていても、そのまま写真を続けて撮るからあとで写真の整理をする場合とてつもなく多くの写真があつて整理に困惑したというように、i-Conも使いこなせば大変便利ですが、そうでないときはやっぱり若手にしわ寄せがくる。女性・若手だからi-Conではなく幅広く活用していけるとよいのではないかと

○一昔前から見ると今の女子への対応には、隔世の感があり戸惑うことがあるが、女子が女子ではなく男性も同じと思う。

○3月末に工事の工期末が集中するが、学校行事などもこの時期にやはり集中するので現場の人たちは、学校行事等には参加したことがないという人が大半でした。会計検査とかのからみもあると思う、国交省だけでは何ともならないかもしれないが考えてもらえるとよい。

○現場の設備では、国交省の現場は快適なトイレ等環境は整ってきていますが、市町村の段階になるとトイレは一応設置してありますが、快適トイレには程遠く他の環境も酷いものでした。女性だからと優遇されるのも非常に恐縮します。

○国交省の出前授業で工業高校だけでなく普通科や中学にも行ってるようですが、理系に限っていたのでは今後衰退するばかりで、i-Conが進めば文系でも慣れればできることなので文系への発信もないと今後の建設業の担い手が増えていかない。

○今後の採用は理系に限らず、文系、子育てを終わった女性の活用とか幅広い層からの採用等もっと柔軟性が持てれば建設業も何とかなっていくのではと思う。

◎愛知県においても「誰もが働きやすい建設現場環境」を目指して発注している。

◎建設業法等の改正で我々技術者にとって、身近で影響のある技術者制度が大きく変わっていきこうとしていますので、今後技士会でも講演会等で勉強していきたいと思っておりますのでご協力お願いします。

中部地方整備局の総括

◎本日の意見交換会では、受発注者、現場ともに週休二日に取り組んでいく方向性が確認できました。今後は、週休二日の実現に向け、下請等の協力会社の問題をどの様に工夫していくのかが重要だと思います。

◎週休二日は、他の産業では当たり前前で、そのようなところを目指すのでは若い人に魅力がないのは当たり前前と思う。建設業界も週休二日が当たり前前の業界になっていかなくてはならないと思います。

◎他の産業では週休二日は当たり前前であり、それを目指している業界では若者に魅力がないと思われるのは当然だと思います。2割の生産性向上が達成できれば、週休二日の短い期間でも同じ物ができるので、こうした効率化も推進しながら、建設業界でも週休二日が当たり前前としていかなくてはなりません。

◎書類の簡素化について、我々は進んでいると考えていますが、一方でそうではないという意見も良く耳にします。本日の皆様のご意見では、書類の電子化を望んでおり、情報共有システム（ASP）によるスピードにメリットと感じているようですが、情報の共有化ができることで新しい使い方を構築していく必要があると思います。今後は、電子化という形から、使い方等の質への転換が必要だと思います。

◎女性技術者の「女性を特別視しないで」という意見は良く分かりますが、女性だからこそという特性を上手使っても良いのではないのでしょうか。女性は、結婚、出産、育児等の女性特有の制約を受けざるを得ないことが多くなると思いますので、皆様には、その様な制約等に対してしなやかに対応できる働き方、女性技術者の目標になってもらえたらと思います。